

シリーズ日本の野外教育史

学校教育編

全4巻

平成八年、旧文部省の中央教育審議会第一次答申の中で、「生きる力」の重要性が謳われ、新たに改訂された学習指導要領へ受け継がれた。

自然体験活動を通して、自主性、協調性、創造力、知識、健康や体力を育む野外教育への期待は大きく、課題や問題点に関する調査研究も蓄積されてきた。しかし、

野外教育に関わる研究は数多く蓄積されているが、その多くが実践効果に関わるものであり、史的研究というような基礎分野に関わる研究は先に比して多くはない。これは、研究テーマごとの史料収集・整理に多大な時間と労力を必要とすることからこの分野の研究が敬遠されがちということは想像に難くない。(高荷英久 解題より)

そこで、史的研究に寄与すべく、テーマごとにまとめ、シリーズ化することを試みた。第一回は戦中・戦後の学校教育に関する資料の中から入手困難になっているものを選んでみた。

体育・スポーツ系大学図書館、

野外教育、自然体験活動、冒険教育、環境教育、遊びの研究者、指導者を目指す学生へ広くお勧めするものである。



刊行について

東京都キャンプ協会理事 日本体育大学 高荷英久

野外教育の定義としては「青少年の野外教育の充実について(報告)(文部省一九九六年)」において「野外教育とは、自然の中で組織的、計画的に一定の教育目標を持って行われる自然体験活動の総称である。」とし、「野外教育は、自然体験活動を取り扱う教育領域であると位置づけることもできる。」と定義している。

この定義以前から、自然体験活動は学校教育において現在も実施されており、最近改訂の教育指導要領でも、「幼稚園教育要領(二〇一八年実施)」では、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にて「自然との関わり・生命尊重」、育みたい資質・能力における「健康」にて「自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶこと」を指導項目としている。「小学校学習指導要領(二〇二〇年実施)」では、「総合的な学習の時間」において自然体験活動の積極的取り入れ、「特別活動」にて自然体験活動の充実を指導項目としている。

「中学校学習指導要領(二〇二二年実施)」では「道徳教育に関する配慮事項」において自然体験活動の充実、「総合的な学習の時間」では自然体験活動の積

極的取り入れが謳われている。「高等学校学習指導要領(二〇二二年実施)」では、「体育」において自然体験型の野外の運動への多様な関わり方として、「キャンプや登山などを適宜取り上げることとする。」と謳われており今後の学校教育においても野外教育は重要な一端を担っている。

今後ますますICTが進み便利な世の中になるにつれ、人との関わり、自然との関わりの希薄化が懸念されている昨今、体験活動の充実には欠かすことのできないものであり、その存在価値は益々高まるであろう。野外教育に関わる研究は数多く蓄積されているが、その多くが実践効果に関わるものであり、史的・研究的というような基礎分野に関わる研究は先に比して多くはない。これは、研究テーマごとの史料収集・整理に多大な時間と労力を必要とすることからこの分野の研究が敬遠されがちということとは想像に難くない。

本シリーズは戦中・戦後の学校教育において自然体験活動がどのように扱われており、どのように行われていたかということを繙く資料となるように構成している。また、同時期の学校外における自然体験活動、特にキャンプおよび登山の実際についても着目し編集している。当時の野外教育に関わる史料としては今までにない構成であろう。本シリーズが学校教育におけるが学校教育における「野外教育」の史料として、今後の野外教育の発展の一助となることを期待したい。

第1巻 学校教育(一)

藩学寺子屋教育と現代教育

外山福男/昭和八(一九三三)年/帝国地方行政学会
●仙台藩の藩学を中心に学校教育、家庭教育、女子教育、社会教育について述べられており、当時の教育内容を知ることができる。

小学校に於ける特別教示

竹原久之助/明治四一(一九〇八)年/宝文館
●休日教示の章で心身発達を目的とする休日遠足を挙げ、校外教示の章では、児童の野外観察を目的とする方法として野外教示、他所観察、修学旅行の三種類を挙げている。

体育の理論と実際

小原国芳編/昭和五(一九三〇)年/玉川学園出版部
●健の教育で、スキー、登山、旅行、さらにテントをかついで高原や森林で過ごすことを学校内では実現できない教育と奨励している。

第2巻 学校教育(二)

学生のキャンプ生活指導に就いて(教護パンフレット第四七輯)

大阪府教護聯盟/昭和九(一九三四)年
●教護団体におけるキャンプ生活指導について。自然環境でおこなわれる野外教育の意義や実施前・上の注意、営火や女学生への配慮の解説。付録に加盟校の実施所感。

青少年グループ活動のプログラム

文部省青少年団体委員会編/昭和二五(一九五〇)年/有朋堂
●青少年を年令でグループ分けし、区分に応じたプログラムについて解説された手引書。各年令グループに該当とされた活動でハイキングが挙げられている。

安全登山の手びき

文部省編/昭和三七(一九六二)年/教育図書
●登山に関する事故や遭難を防ぐための啓発書。中学生の登山については教師の監督指導のもとに学校行事として実施することを奨励している。

第3巻 学校教育(三)

青少年指導の手引

文部省青少年団体委員会編/昭和二四(一九四九)年
●青少年指導者講習会に招かれたアメリカ人講師三名による講義、ディスカッションをまとめたもの。グループワークの有用性について書かれている。

青年キャンプ指導の手引

文部省/昭和二八(一九五三)年
●キャンプの指導的立場にある人に対する手引書。プログラムの分類、リーダーの重要性、衛生面や救急処置の方法、諸活動の解説、キャンプファイヤーの重要性について。

第4巻 服装・用具・手帖

●登山服や用具の解説書と高校生用に作成された手帖。学校教育のみならず、一般の野外体験を進展させた用具の進化を知ることが大切なことだと考えて収録した。

山岳服装近代色

菅沼達太郎/昭和七(一九三二)年/大村書店

登山の小史と用具の変遷

西岡一雄/昭和三三(一九五八)年/朋文堂

Camp手帖

キャンプ研究会編/昭和二九(一九五四)年/茗溪堂

グループ活動とその特徴

1 自然研究・野外研究の意味、都念の子供といわず、農村の子供でも、野外の生活は極めて魅力のある生活である。この野外の自然に接して、動植物の生活を観察し、岩石や土壌を観察し、そこに現れる生物学的、物理的、化学的な現象を観察する活動、野外研究である。このような野外研究は、子供が遊びのうちに、相互の共通を通じて、知識を廣め、経験を豊かにすることができる。

これを例えれば、夏になれば子供は水遊びを好む。あらかじめ目的を定め、計画を立てて魚とりに出かけるのもよいが、子供達は川に誘はば、そこで子供達は魚がいないかを注意し、居れば捕ろうとするだろう。道具なしでとる場合は、困難があるだけに、かえって工夫をし、努力をし、興味を覚え、効果より大なりしめるだろう。水が深くこれは捕りにくい、上の方をせきとめて、水を他に流した方がよいと考え、石や砂を集めて、水中に堤防を築き、水を思う方向へ流そうとする者もある。共同目的のため、鉾々が協同して懸命に働き、一人では到底及ばぬ大仕事が出来ることの愉快さと、共同力の偉大さを悟るのである。又石

にいろいろな色や、形や、大きさがあることや、砂は流れやすく、砂利は重く流れにくいことや、石や砂利は何が何についているのか、ぬる／＼することもあること、水が水面で反射すること、水は透明で底が見えること、石を持ち上げる時は、水中の方が軽いことなどを意識したり、魚を捕るときには、その形態から運動法は勿論のこと、捕え方の工夫をいろいろと試み、また、捕えた魚を水際に、池を捕つてそこに入れたる者もある。池を捕れば、砂を捕ると水が出て来ること、水が響くは濁っているが、やがては澄むことやその理由、その他多くのことを知るに違いない。もし捕えた魚が死んだら、彼等は小さい胸を痛め、同情と愛情の念にうたれる程で、感情教育の上にも得る点もある。

少年のグループともなれば、研究の方法にもなれ、興味も深まってくるから、それにつれて、観察対象の範囲も自ら廣くなり、また深まってくる。さらに青年期になれば、知的にも発達し、四圍の現象に種々な問題をもつようになる。日常の生活に関係の深い自然について、探究の眼を向けるようになつ

キャンパー(参加者)の評価表の一例

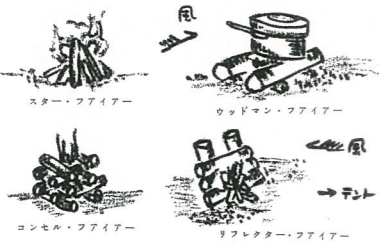
項目	評価
10	
9	
8	
7	
6	
5	
4	
3	
2	
1	

父兄はキャンプをよく理解していたか
 キャンプ前の健康状態はどうだったか
 キャンプ後の健康状態はどうだったか
 交友は作られたか
 問題(事故)は起らなかったか
 宗教的にどうだったか
 道徳的にどうだったか
 キャンプ生活の目的を理解したか
 討論中の発言は遠慮なくできたか
 自主的な行動ができたか
 キャンプの仕事に快よく協力できたか
 余暇をよく利用したか
 スポーツ、運動競技はどうだったか
 突進に進んで参加できたか
 来年もキャンプ生活をする気持ちになったか
 キャンプ生活により市民としての賢明を作ったか
 経験と精神から独創的な心が作られたか
 自己の考えはどの位役立ったか
 グループの生活と地域社会への奉仕をどう考えたか
 教育的なキャンプ生活と遊樂的なキャンプ生活との差異をどう感じたか
 について自己でどの位理解できたか

▲第3巻「青年キャンプ指導の手引」より

4. キャンプ・ファイアー

キャンプに於ける夜の憩いと集いの楽しさはキャンプ・ファイアーに代表される。多人数で集うのも又楽しい。小さな焚火を囲んで二、三名で話し合うのも又印象的である。キャンプに於ける火の焚き方は大略図に示す如く4種類に分けられ、これ等をその特長に応じて適宜使用して、楽しい宵を過ごす手段とすればよい。次に簡単にその特徴を示すと、i) コンセル・ファイアー：多人数のキャンプ・ファイアー、特に儀式的なキャンプ・ファイアーに用いられるもので火持ちがよく、光量も多い。但し薪が多く要る欠点がある。ii) スター・ファイアー：大きくすれば明るい火となり少くすれば所謂ホタ火となる。比較的少量が多いが早く燃え尽く。iii) 大きい丸火を二本並べその中で小さな火を燃すので丸太に火がつけば長持ちするし、少人数のパーティーでしんみり話をしたり炊事を兼用したりするのに都合がよい。iv) 図のような組み方をフレクター・ファイアーと言ひ、テントの前等で探検、談話を兼ねるのに都合がよいし、比較的長持ちする。iii) iv) の中間的な大きな丸一本に寄せかけた焚火(バツク・ロツク・ファイアー)もある。以上の様な各種の火を囲んで、人間が神から与えられた最大の贈物に感謝しつゝ、大自然の中で話し、歌い合うのが、キャンプ・ファイアーの本質であり、酒席、宴会そのまゝのキャンプ・ファイアーはキャン



ンパーの知性の低さを示すバロメーター以外の何物でもない。多人数で行なうキャンプ・ファイアーは、技術的に熟れた司会者が中心となり、營火長を定め、營火長を中心に茶賃を北極星圍又は風上に、残りの四圍に全員が集り、火を囲んで円く坐り、司会者(エール・マスター)の指導の下、火番(ファイアー・キーパー)の努力により、或時は天をこがす焰と共に歌ひ、或時は酒え行く火を見つめつゝ、明日からの生活を祈る一種の儀式的なキャンプの集りである。

▲第4巻「Camp手帖」より

▲第2巻「青少年グループ活動のプログラム」より

シリーズ日本の野外教育史 学校教育編 全4巻

高荷英久 編・解説

- 第1巻 学校教育（一） 定価 29,000 円（税別）ISBN978-4-86670-087-8
第2巻 学校教育（二） 定価 26,000 円（税別）ISBN978-4-86670-088-5
第3巻 学校教育（三） 定価 12,000 円（税別）ISBN978-4-86670-089-2
第4巻 服装・用具・手帖 定価 21,000 円（税別）ISBN978-4-86670-090-8
全4巻 揃定価 88,000 円 ISBN 978-4-86670-086-1（セット）C3375

A5判／上製函入／クロス装／2020年7月25日刊行

体育・スポーツ書集成 民話文庫研究会編 企画・編集責任者 中村民雄、石井隆憲

体育・スポーツ書のうち、これまで復刻されていない貴重書を四つのテーマに分けて集大成する

- 第Ⅰ回 戦後保健体育指導書 全七巻 揃定価 93,500 円（税別）ISBN978-4-87733-983-8
- 第Ⅱ回 戦後学校武道指導書 全五巻 揃定価 66,500 円（税別）ISBN978-4-87733-989-0
- 第Ⅲ回 国民体力向上関係書 全八巻 揃定価 108,800 円（税別）ISBN978-4-86670-020-5
- 第Ⅳ回 明治期体操学校 体育・体操書 全六巻 揃定価 96,000 円（税別）ISBN978-4-86670-027-4

格闘武術・柔術柔道書集成 民話文庫研究会編 企画・編集責任者 中村民雄、石井隆憲

体術系の格闘武術、柔術、柔道書のうち、これまで復刻されていない貴重書を集大成する

- 第Ⅰ回 明治期の逮捕術・柔術柔道書 全六巻 揃定価 105,000 円（税別）ISBN978-4-86670-043-4
- 第Ⅱ回 大正期の護身術・柔術柔道書 全七巻 揃定価 124,000 円（税別）ISBN978-4-86670-051-9
- 第Ⅲ回 昭和（戦前期）の格闘武術・柔道書 全八巻 揃定価 153,000 円（税別）ISBN978-4-86670-082-3

中学校・高等学校スポーツ指導叢書 石井隆憲解説 民話文庫研究会協力

昭和30年代前半、スポーツ教育の幕開けに先鞭をつけたと評価の高い指導叢書を復刻する

- 全3巻 揃定価 46,000 円（税別）ISBN978-4-86670-036-6
- 第1巻 チーム・スポーツ 定価 17,000 円（税別）ISBN978-4-86670-033-5
- 第2巻 個人スポーツ 定価 14,000 円（税別）ISBN978-4-86670-034-2
- 第3巻 レクリエーション・スポーツ 定価 15,000 円（税別）ISBN978-4-86670-035-9

戦後体育学習指導資料集 岡出美則 編・解説

法的拘束力をもつ学習指導要領が生み出される前後で、先人がどのような試みをなしたか、問題点を再認識する

- 全7巻 揃定価 92,000 円（税別）ISBN978-4-87733-903-6

戦後体育実践資料集 岡出美則 編・解説

戦後体育教育の実践がどのように展開されたのか、「戦後体育学習指導資料集」と対をなす資料

- 全7巻 揃定価 93,000 円（税別）ISBN978-4-87733-961-6